

つながる。驚きを。幸せを。

 **docomo** Business

テクノロジー ロードマップ 2025

テクノロジーロードマップ 2025について

つながる。驚きを。幸せを。

 **docomo Business**

NTTドコモビジネス株式会社は企業と地域が持続的に成長できる自律分散型社会を支える「産業・地域DXのプラットフォーマー」として、豊かな未来社会の実現に向けた、「テクノロジーロードマップ 2025」を公開します。

資料構成

概要

① ドコモビジネスが目指す姿



社会・産業課題に対する構想を起点に、お客さまやパートナーのみなさまとNTTドコモビジネスが実現したい未来像を提示

② 俯瞰図：目次 (できるようになることの全体像)



7つの技術領域 x 短・中・長期で「どんなことができるようになるか」を一覧化

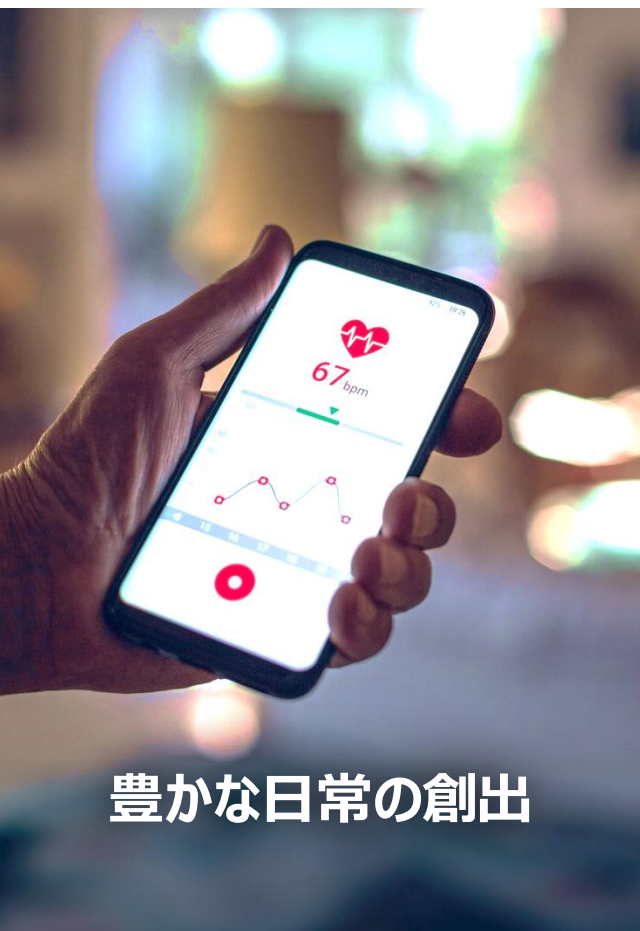
③ 詳細図：7つの技術領域 (できるようになることの具体)



各技術領域における「実現する成果や提供できる価値」を短・中・長期で具体的に記載

私たちは

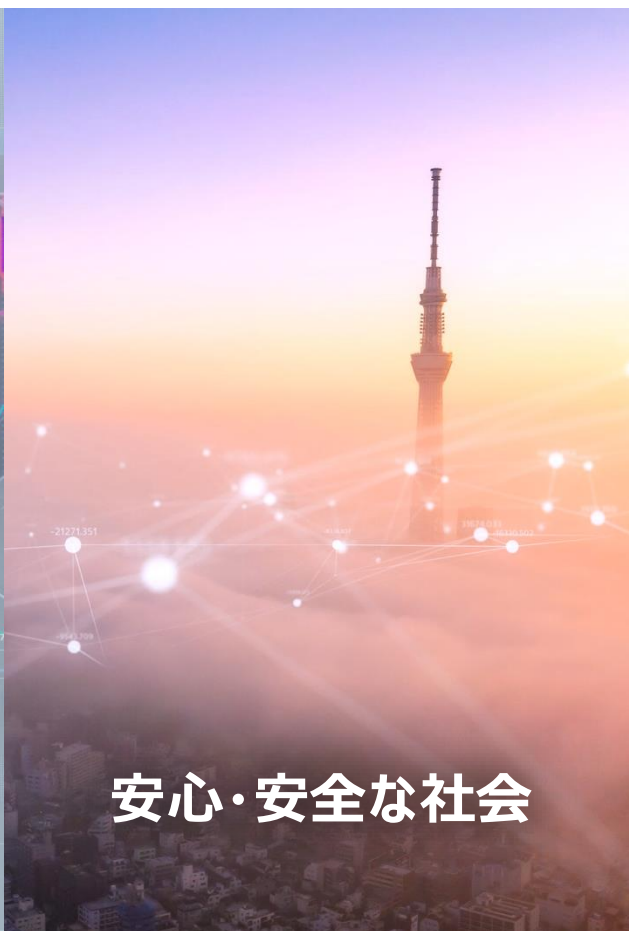
**すべてを“つなぎ続ける”ことで提供価値を高めて、
社会・産業を変えていく会社を目指します。**



豊かな日常の創出



経済の安定成長



安心・安全な社会



持続的な
資源循環の未来

7つの技術領域とお客さまやパートナーのみなさまと実現したい 豊かな未来社会について

つながる。驚きを。幸せを。

 **docomo Business**

本ロードマップは、豊かな未来社会への共創に向けて、客観的な調査とNTTドコモビジネスの知見を基に、技術の方向性を示しています。多様で深刻化する社会課題解決に向けて、企業や地域を超えた共創が織りなす「未来への羅針盤」をイメージしています。NTTグループの多様なアセットをワンストップで提供し、総合ICT事業を担うNTTドコモビジネスの特徴を活かし、7つの技術領域の展望を示したものです。

技術領域

技術と共創により実現したい未来社会について

1.AI／ロボティクス



AIによる業務効率化・自動化から、AI同士の連携の高度化による複雑な課題解決に寄与します。さらにはAI／ロボットと人々が共生し、生活や仕事にとけこむことにより、優しさとゆとりに満ちた「**豊かな日常**」の実現をめざします。

2.IoT／データ／ デジタルツイン



IoTによるデータ収集・管理を簡易化・自動化し、詳細で価値ある大量のデータを集めることでデジタルツイン基盤の構築を支えます。将来的には、AI／ロボティクスによる社会オートメーションを活用し「**経済の安定成長**」につなげます。

3.仮想化 (Cognitive Foundation®※1)



必要な時に必要な量だけ使えるエコなネットワークから、多様なコンピュータリソースの利活用を実現します。さらには、システム管理者の意図を汲み取る自律型AIエージェントにより、高度化・多様化するIT管理の課題を解消するオペレーターフリーな世界をめざします。

※1：「Cognitive Foundation®」とは、あらゆるICTリソースを全体最適に調和させて、必要な情報をネットワーク内に流通させる技術です。
「Cognitive Foundation®」は、NTT株式会社の商標または登録商標です。

技術領域

技術と共創により実現したい未来社会

4. データセンター／量子



冷却・省電力技術の高度化およびGPU等の分散技術により膨大なAI・電力需要に対応します。将来的には量子コンピューティングの革新的な計算能力を活用し、交通、物流、金融および製造などに関する従来のコンピューターでは解けない最適化問題の解決を通じて新しい産業創出の展開をめざします。

5. セキュリティ



工場・医療などOT（Operational Technology）※2ネットワークの保護から、分散型識別子等による信頼基盤を実現します。将来的には「**安心・安全な社会**」に向けて、AI／ロボット同士のやり取りが増えていく中で、一定のルールに従いAIが自動でリスクに対応するセキュリティへの進化をめざします。

6. ICTインフラ (IOWN®※3)



超高速・低遅延通信や省電力化により、自動運転支援や都市・医療の最適化を支えます。さらには世界中のデータをリアルタイムでつなぎ、時間・距離そして組織を超え共創しあう次世代社会の創造を支え、「**持続的な資源循環の未来**」をめざします。

7. 宇宙／NTN※4／モバイル



5Gの優先制御機能などによる途切れない通信の対応から、あらゆる場所での高速通信を実現します。将来的には宇宙統合コンピューティング環境と連携した強靱なネットワークにより、気候変動や災害に対するお客さまICT環境のレジリエンスを高め、事業継続が可能な環境の実現をめざします。

※2：OTとは、Operational Technologyの略で、工場やプラントなどの運用技術のことです。

※3：「IOWN®」とは、Innovative Optical and Wireless Networkの略で、あらゆる情報を基に個と全体との最適化を図り、光を中心とした革新的技術を活用し、高速大容量通信ならびに膨大な計算リソースなどを提供可能な、端末を含むネットワーク・情報処理基盤です。「IOWN®」は、NTT株式会社の商標または登録商標です。

※4：NTNとは、Non-Terrestrial Networkの略で、人工衛星や無人飛行機などを活用し、上空から広範囲に通信を提供する技術です。

テクノロジーロードマップ 2025

- 地域・産業のDXプラットフォームとしての貢献を目指し、NTTドコモビジネスが注力する技術領域を俯瞰的に表現しました。
- 社会課題の解決と持続的な価値創出に向けた現在及び今後の技術テーマの全体像を示しています。

	短期 -2025	中期 3年 2026-2028	長期 5年 2029-2034
1 AI/ ロボティクス	AI技術による、業務効率化と自動化の実現 ・ 領域特化型AIエージェント ・ AI・機械学習(AI Autopilot等)	AI同士をつなぎ、高度な課題を解決 ・ マルチエージェント/AIコンステレーション ・ ロボティクス (データセンター運用等)	AI/ロボットが日常を支え、 人の暮らしにゆとりをつくる ・ ヒューマンデジタルツインエージェント (自律型AI+ロボティクス統合管理)
2 IoT/データ/ デジタルツイン	IoTプラットフォームで、データ収集と管理を簡易化 ・ 映像IoT/IoT PF ・ データマネジメント	リアルとデジタルを、シームレスにつなぐ通信を実現 ・ 自動運転遠隔制御 (切れない無線・映像等) 技術 ・ データ流通PF/4Dデジタル基盤/デジタルツインコンピューティング PF	人とデジタル機器をつなぐ、技術を実現 ・ 生体・環境等新たなセンシング技術 (ニューロテック/サイバネティクス等)
3 仮想化 (Cognitive Foundation)	必要な時に必要な量だけ使える、 エコなネットワークを実現 ・ NaaS (ネットワークサービスオンデマンド化) ・ サービスのAPI化	用途に応じて、 様々なコンピュータリソースを意識せずに利用 ・ AI自律分散ICT ・ ハイブリッドコンピューティング	システム管理者の意図を汲み取る、 自律型AIエージェントがオペレーターフリーを実現 ・ AI自律分散統合制御
4 データセンター/ 量子	冷却GPU技術で、AI需要と電力消費に対応 ・ 直接液冷方式 ・ AI/GPU基盤	地元のエネルギーと高速ネットワークで、 電力不足を解消 ・ データセンター分散化 (分散 xPU基盤/デバイス) ・ ワットビット連携 / エネルギーマネジメント	量子コンピュータで、数百年の計算を瞬時に解決 ・ 量子 (耐量子暗号・暗号・Computing) ・ 次世代エネルギー調達
5 セキュリティ	工場のネットワーク化で増えるセキュリティリスクを、 AIで守る体制を構築 ・ OT セキュリティ / SBOM / ASM*1 / 秘密計算 ・ Cybersecurity AI Assistants	トラスト基盤やブロックチェーンで、国境を越えた データ流通を実現 ・ DID / VC*2 (データスペース、Blockchain) ・ IOWN PETS*3、4	AIが自動で作業する、時代にあったルール策定 ・ 自律型AI時代のAI TriSM*5 ・ AI自律型セキュリティ (AI to AI crypto Transactions)
6 ICTインフラ (IOWN)	超低遅延通信で、自動運転と遠隔手術を実現 ・ IOWN APN*6 ・ AIアシスタント(ネットワーク AI Ops)	都市や医療のデータを即時分析して、最適化 ・ IOWN 光コンピューティング*7 ・ 光ネットワークデジタルツイン	世界中のデータが、 リアルタイムでつながる次世代社会 ・ IOWN ネットワーク+Compute融合 ・ APN波長変換・波長帯変換
7 宇宙/NTN *8 モバイル	優先接続と5Gで、切れないモバイルを実現 ・ 5G (スライシング / QoS) ・ 5G パブリック / ローカル連携	高高度通信で、どこでもつながる世界を実現 ・ 宇宙 (データ利活用、HAPS)	宇宙通信で、強くて最良なネットワークを実現 ・ 6G ・ 宇宙コンピューティングネットワーク

*1 ASM : Attack Surface Management *2 DID/VC : Decentralized Identifier / Verifiable Credentials (分散型識別子/検証可能なデジタル資格証明書) *3 IOWN : Innovative Optical and Wireless Network
*4 PETS : Privacy-Enhancing Technologies (プライバシーを保護したままデータを処理する技術の総称) *5 AI TriSM : AI Trust, Risk, and Security Managementの略 *6 APN : All-Photonics Network *7 DCI : Data Centric Infrastructure技術を含む *8 NTN : Non-Terrestrial Network

テクノロジーロードマップ: AI / ロボティクス

つながる。驚きを。幸せを。

 **docomo Business**

人口減少による労働力不足を解決するため、ヒューマンデジタルツインと自律分散型ロボットが連携し、次世代オートメーションの実現が期待されます。

短期 -2025

中期 3年 2026-2028

長期 5年 2029-2034

1 AI/
ロボティクス

領域特化型AIエージェント
AI・機械学習(AI Autopilot System等)



AI技術による、
業務効率化と自動化の実現

1. 特化型の生成AI

特定の業務やタスクに特化した生成AI技術で、コンタクトセンタのアフターワークなどの業務プロセスを効率化する。

2. 業務プロセスの効率化

逐次指示を出さなくてもAIエージェントが自動で業務を遂行してくれることにより、生産性を大幅に向上させる。

3. 製造プロセスの自動化

時系列データのAI・機械学習分析により、プラントなどの製造プロセスの自動化ができ、熟練者のノウハウ伝承が容易になる。

マルチエージェント/AIコンステレーション
ロボティクス(データセンター運用等)



AI同士をつなぎ、
高度な課題を解決

1. 複数の生成AIが連動

複数の生成AIエンジンや学習モデルを組み合わせることで、活動の精度やスピードが向上させることができる。

2. AIロボット

AIにより高度な業務を任せられるようになり、生産現場や運用の現場の多くの作業をAIロボットに置き換えることができる。

3. 省人化とスピードアップ

現場の人材をAIに置き換えることで、作業の省人化とスピードアップさせるだけでなく、より高度で正確な作業を行うことができる。

ヒューマンデジタルツインエージェント
(自律型AI+ロボティクス統合管理)



AI/ロボットが日常を支え、
人の暮らしにゆとりをつくる

1. デジタルな分身

ユーザーを高精度で理解したデジタルな分身が、意思決定やスケジュール管理をすることで生活を自律的にサポートする。

2. AI/ロボットとの共生

AIが統合管理することで、日々の暮らしから工場での生産まで、多様な分野で人とAI/ロボットが共生し、共存共栄できる。

3. 人間の能力を超えたサポート

ロボットは休む必要がなく、人間の能力を超えたスピードで作業や意思決定をサポートしながら効率化を進めることができる。

2 IoT/データ/
デジタルツイン

3 仮想化
(Cognitive
Foundation)

4 データセンター/
量子

5 セキュリティ

6 ICTインフラ
(IOWN)

7 宇宙 (NTN)
モバイル

テクノロジーロードマップ: IoT / データ / デジタルツイン

つながる。驚きを。幸せを。

 **docomo Business**

社会オートメーションの実現に向け、モノとモノ、リアルとデジタルをデータでつなぎ、AIやロボットの活用を支えるデータプラットフォームの構築が期待されます。

短期 -2025

中期 3年 2026-2028

長期 5年 2029-2034

1 AI/
ロボティクス

2 IoT/データ/
デジタルツイン

3 仮想化
(Cognitive
Foundation)

4 データセンター/
量子

5 セキュリティ

6 ICTインフラ
(IOWN)

7 宇宙 (NTN)
モバイル

映像IoT PF/IoT PF
データマネジメント



**IoTプラットフォームで、
データ収集と管理を簡易化**

1. IoTプラットフォーム

安全性の高いネットワークサービスに接続したIoTプラットフォームにより、映像やセンシングされたデータを収集する。

2. データ活用

これまでベンダ個別になりがちだったデータ収集・利活用を一つのプラットフォーム上で扱うことができるようになる。

3. AI活用

収集したデータを組み合わせ、AIを使って活用することで、新たな業務への展開が可能になる。

自動運転遠隔制御(切れない無線・映像等)
データ流通PF/4Dデジタル基盤/デジタルツインコネクティビティPF



**リアルとデジタルを、
シームレスにつなぐ通信を実現**

1. 自動運転Level4

来る自動運転Level4以上の世界に向け、多様な無線・有線技術を活用した切れない通信と、遅延のないセンシングデータが取得できる。

2. 途切れない・遅延のない通信

ネットワークを意識することなくアプリケーションを使うことができ、プラットフォーム上に集められたデータの活用が可能になる。

3. セキュアなメディア通信

安全性を担保しながら、遠隔制御に不可欠となる信号・映像等複数のメディア通信を行う。

生体・環境等新たなセンシング技術
(ニューロテック、サイバネティクス等)



**人とデジタル機器をつなぐ、
技術を実現**

1. サイバネティクス

脳波や筋電を活用した技術を活用して個人の感性や認知を可視化し、コミュニケーションを円滑化する。

2. シームレスなデバイス連携

サイバネティクス、AI、センサー技術、IoT、生体認証を活用し、人とデジタル・デバイスをシームレスにつなぐ技術が実現する。

3. 障がい者支援

直感的な操作、リアルタイムのフィードバック、効率的な情報交換により、パーソナライズされた体験が可能となる。

テクノロジーロードマップ: 仮想化(Cognitive Foundation)

つながる。驚きを。幸せを。

NTT docomo Business

AIと高度化するサービスにより、データと計算リソースの最適化が急務であり、ITシステム管理者の役割が拡大し、AIによる自律的運用が期待されます。

短期 -2025

NaaS (ネットワークサービスオンデマンド化)
サービスのAPI化



必要な時に必要な量だけ使える、
エコなネットワークを実現

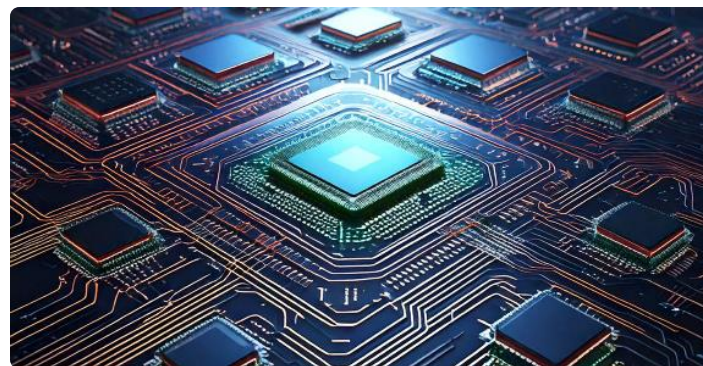
1. NaaS (ネットワークサービスオンデマンド化)
ネットワーク環境や関連サービスを一括管理することで、管理、保守、セキュリティ等の設定の手間やコストを削減する。

2. API経由のネットワーク制御
様々なネットワークをAPIで経由しソフトウェアで制御することで、ネットワークやセキュリティサービスを必要な分だけ利用できる。

3. コスト最適化されたICT環境
自動化システムと組み合わせることで、利用者が意識することなく、より快適にコストの最適化がされたICT環境が使える。

中期 3年 2026-2028

AI自律分散ICT
ハイブリッドコンピューティング



用途に応じて、様々なコンピュータリソースを
意識せずに利用

1. ネットワークサービス
個別のソリューションやシステム、コンピュートやアプリと連携・一体化した制御ができる。

2. アプリやシステムのハイブリッド活用
ネットワークやリソースのロケーションを意識することなく、アプリケーションやシステムを活用できる。

3. 自律的なICT環境
AIと組合せて、利用用途に応じた最適な計算資源を配置・活用し効率化を促進し、より高度で自律的なICT環境が実現できる。

長期 5年 2029-2034

AI自律分散統合制御



システム管理者の意図を汲み取る、自律型
AIエージェントがオペレーターフリーを実現

1. AIエージェント
自律的にICT環境を評価し、運用・制御することで、複雑化・増加する傾向のシステム管理者が行うべきタスクが大幅に軽減される。

2. ICT環境の自律的評価
AIが自律的にICT環境の性能を評価し、予算に応じて必要なリソースの追加削除をする。

3. リソースの自動管理
自動管理が進むことで、従来の人手での対応では成しえないレベルで、常に快適なICT環境が維持される。

1 AI/
ロボティクス

2 IoT/データ/
デジタルツイン

3 仮想化
(Cognitive
Foundation)

4 データセンター/
量子

5 セキュリティ

6 ICTインフラ
(IOWN)

7 宇宙 (NTN)
モバイル

テクノロジーロードマップ: データセンター / 量子

つながる。驚きを。幸せを。

 **docomo Business**

AIとデータの利活用が進む中、計算リソースと電力の需要が急増しており、エコで効率的なリソース活用を目指した冷却技術やデータセンターの分散技術、量子技術の進展が期待されます。

短期 -2025

中期 3年 2026-2028

長期 5年 2029-2034

1 AI/
ロボティクス

2 IoT/データ/
デジタルツイン

3 仮想化
(Cognitive
Foundation)

4 データセンター/
量子

5 セキュリティ

6 ICTインフラ
(IOWN)

7 宇宙 (NTN)
モバイル

直接液冷方式対応
AI/GPU基盤



**冷却GPU技術で、
AI需要と電力消費に対応**

1. 高性能GPUサーバの必要性

生成AIの利用が増えると、新しい学習モデルを作るために高性能なGPUサーバが必要になる。

2. 冷却性能の重要性

高発熱サーバを冷却するためには冷却性能の高いデータセンターが重要であり、これにより設置場所の制限がなくなる。

3. オンデマンドサービスの利用

必要な時にだけGPUサーバを利用できるオンデマンドサービスが利用可能になる。

データセンター分散化 (分散 xPU基盤/デバイス)
ワットビット連携/エネルギーマネジメント



**地元のエネルギーと高速ネットワークで、
電力不足を解消**

1. データセンターの分散化

電力不足によりGPUを設置するデータセンターが分散され、再生可能エネルギーの利用が進む。

2. 高速ネットワークの利用

高速で遅延のないネットワークでデータセンターをつなぎ、離れた場所にあるGPUも同じ場所にあるかのように使える。

3. エネルギーマネジメントの実現

電力を情報に変換して送ることで、エネルギーマネジメントが実現する。

量子(耐量子・暗号・Computing)
次世代エネルギー調達



**量子コンピュータで、
数百年の計算を瞬時に解決**

1. 進化したコンピュータ技術の登場

量子技術と再生可能エネルギーを利用する、進化したコンピュータ技術が登場する。

2. 業界の変革

創薬など大量のサンプルや多くの計算が必要な業界が、大きく変わる可能性がある。

3. セキュリティ対策の必要性

高度な計算能力で暗号が破られる可能性があるため、新しいセキュリティ対策が必要になる。

テクノロジーロードマップ: セキュリティ

つながる。驚きを。幸せを。

 **docomo Business**

AIとデータの利活用が進む中、セキュリティの重要性が増しており、これらの課題を解決するためには、AIによる自律的な運用と最新のセキュリティ技術の進展が期待されます。

短期 -2025

中期 3年 2026-2028

長期 5年 2029-2034

1 AI/
ロボティクス

2 IoT/データ/
デジタルツイン

3 仮想化
(Cognitive
Foundation)

4 データセンター/
量子

5 セキュリティ

6 ICTインフラ
(IOWN)

7 宇宙 (NTN)
モバイル

OTセキュリティ/ASM※ (SBOM/秘密計算)
Cybersecurity AI Assistants



**工場のネットワーク化で増える
セキュリティリスクを、AIで守る体制を構築**

1. 工場の保護と安定稼働

OTセキュリティにより工場はサイバー攻撃から守られ、生産設備は安定して動き、データも安全に管理できる。

2. AIによる脅威検知と予防

AIを使うことで、リアルタイムで脅威を見つけてすぐに対応でき、予測分析でトラブルを防げる。

3. 多角的なセキュリティ対策

SBOM対応としてオープンソースのセキュリティや秘密計算を活用することで、データを守りながら計算もできる。

DID/VC※(データスペース、Blockchain)
IOWN PETS※



**トラスト基盤やブロックチェーンで、
国境を越えたデータ流通を実現**

1. 安全なデータ流通

トラスト基盤とブロックチェーンで、安全で改ざんのできないデータのやり取りが可能になる。

2. グローバルなデータ共有

異なるシステム間でもスムーズにデータを共有でき、国を超えてデータ取引や協力ができる。

3. 意志決定の高速化

信頼できるデータで素早く決定を下し、新たなビジネスチャンスが生まれることで、世界市場での競争力が向上する。

自律型AI時代のAI TRiSM/AI自律型セキュリティ
(AI to AI crypto Transactions)



**AIが自動で作業する、
時代にあったルール策定**

1. 自動セキュリティの時代

AI同士が暗号を使って自動で通信し、セキュリティが自動で守られる時代が来る。

2. 環境整備とルール作り

自律型AIの時代では、AIが人の代わりに作業をするための環境整備やルール作りが重要になる。

3. 自動化領域の拡大による業務効率の向上

ユーザーは安心してAIに作業を任せることができ、効率が大幅に向上し、新しいビジネスチャンスが広がる。

テクノロジーロードマップ: ICTインフラ (IOWN)

つながる。驚きを。幸せを。

 **docomo Business**

自律分散社会とオートメーションの実現に向け、都市やデータセンター、サプライチェーンを超低遅延でつなぎ、世界中のデータがリアルタイムでつながる未来が期待されます。

短期 -2025

中期 3年 2026-2028

長期 5年 2029-2034

1 AI/
ロボティクス

IOWN APN、AIアシスタント
(ネットワーク AI Ops)



超低遅延通信で、
自動運転と遠隔手術を実現

2 IoT/データ/
デジタルツイン

IOWN 光コンピューティング
光ネットワークデジタルツイン



都市や医療のデータを即時分析して、
最適化

3 仮想化
(Cognitive
Foundation)

IOWN ネットワーク+Compute融合、
APN波長変換・波長帯変換



世界中のデータが、
リアルタイムでつながる次世代社会

4 データセンター/
量子

5 セキュリティ

1. 安全でスムーズな交通

自動運転車がほぼリアルタイムで通信し、安全でスムーズな交通が実現する。

1. データのリアルタイム統合

都市全体のデータをリアルタイムで統合・分析し、交通渋滞や電力消費をすぐに最適化できる。

1. 安全な自動運転

車がリアルタイムで交通データを処理・共有し、安全なルート選択や障害物回避ができる。

6 ICTインフラ
(IOWN)

2. 正確な遠隔手術

医療分野では、遠隔手術で超低遅延の通信により正確な操作が可能になる。

2. 医師の治療方針をサポート

医師の治療方針決定をサポートし、遠隔診断にも役立てられる。

2. 連携する生産機器

工場内の生産機器が常に連携して動き、作業の進行状況をリアルタイムで把握できるシステムが整う。

7 宇宙 (NTN)
モバイル

3. 遠隔操作技術の拡大

遅延のない高速・高容量のデータ通信により、緻密なオペレーションも遠隔操作で行えるようになる。

3. 医療サービスの質向上

蓄積した医療データにあらゆる地域からアクセスできるため、経験の浅い医師が精度の高い診断を迅速にできる。

3. 効率的な生産

継続的にあらゆるデータをリアルタイムで把握することで、異常の早期発見が可能になり、効率的な生産を続けられる。

テクノロジーロードマップ: 宇宙 (NTN) / モバイル

つながる。驚きを。幸せを。

 NTT docomo Business

モバイル通信と宇宙通信の進展により、どこでもつながる未来が実現し、災害時の冗長性が担保や、高速で効率的なデータ処理が期待されます。

短期 -2025

5G (スライシング/QoS) パブリック/ローカル連携



優先接続と5Gで 切れないモバイルを実現

1. 高品質な無線アクセス

無線アクセスが、いつでもどこでも高品質で使えるようになる。

2. 優先リソース割り当て

QoS機能で重要なデータやアプリに優先的に通信リソースを割り当て、高信頼性と低遅延を実現する。

3. 安定した通信環境

遠隔医療や自動運転車など、遅延が許されないアプリに安定した通信環境が提供される。

中期 3年 2026-2028

宇宙(データ利活用、HAPS)



高高度通信で どこでもつながる世界を実現

1. どこでもつながる通信

無線の不感地帯がほとんどなくなり、どこでも通信がつながるようになる。

2. 農業や漁業などの効率化

上空からのデータと地上からのデータを組み合わせることで、農業の収穫量や農地利用の効率化、漁業の効率化が可能になる。

3. 災害時の安定通信

地上の気象条件に影響されにくく、災害時でも安定した通信が可能となり、救助活動や情報収集が容易になる。

長期 5年 2029-2034

6G、宇宙統合コンピューティングネットワーク



宇宙通信で強くて最良な ネットワークを実現

1. グローバルIoTネットワーク

宇宙統合コンピューティング環境を使って、地球全体をカバーするグローバルIoTネットワークが作れる。

2. リアルタイムデータ活用

多様なリアルタイムデータを活用することで無人化を実現し、僻地や危険な地域でも事業が可能になる。

3. 地上の災害リスクを回避

宇宙にデータセンターを設置し、地球上のデータを宇宙で処理することで、地上の災害リスクを避けながら、高速で効率的なデータ処理が可能になる。

1 AI/
ロボティクス

2 IoT/データ/
デジタルツイン

3 仮想化
(Cognitive
Foundation)

4 データセンター/
量子

5 セキュリティ

6 IOWN/
ICTインフラ

7 宇宙 (NTN)
モバイル